

第3回 本のまちビジョン検討委員会 議事要旨

日 時：令和6年11月19日（火）14：00～16：00

場 所：市役所議会棟2階大会議室

I 会議次第

- 1 開会
- 2 出席者の紹介
- 3 本のまち大使 上田岳弘氏 挨拶
- 4 前回の振り返りとビジョン素案（原案）について（説明）
 - (1) 前回の振り返り
 - (2) ビジョン素案（原案）について

5 意見交換

6 その他

閉会

II 出席者

委員

吉成会長 佐伯委員 瀬尾委員 平賀委員 横山委員

※木原委員、嶋田委員は当日欠席

関係部署

明石市

丸谷市長 佐野副市長

政策局

久保井政策局長 山口プロジェクト部長

中川次長（本のまち担当）兼プロジェクト推進室課長

教育委員会事務局青少年教育担当

谷田青少年教育担当課長

プロジェクト推進室本のまち担当

神尾係長 山居事務職員 森事務職員

Ⅲ 議事内容

(司会進行：山口プロジェクト部長)

1 開会

傍聴者数及び会議成立の報告、資料確認

2 出席者の紹介

「出席者名簿」参照

3 あかし本のまち大使 上田岳弘氏 挨拶

上田氏はオンラインにて参加し、挨拶後退席

4 前回の振り返りとビジョン素案(原案)について(説明)

会 長：ここからは私が進行させていただきます。皆さんよろしくお願いたします。
まずは本日の資料について、事務局からご説明をお願いします。

(中川次長(本のまち担当)より説明)

※資料1～2参照

5 意見交換

会 長：事務局、ありがとうございます。「次第の5 意見交換」に移る前に、委員の皆さん、今の事務局の説明に対してご質問やご意見などありますでしょうか？

検討委員：ビジョンとしてよくまとまっていて、事務局の皆さんがよく議論をされたことが伺えます。事務局でまとめる際にここが苦しかった、という部分はどこでしょうか？

事務局：一つは『本のまちビジョン素案(原案)』6ページ、「大切にしたいこと」を市目線ではなく市民目線の内容と表現にするため検討に時間を要した。もう一つは「4人や場所の役割」「5人や場所の連携」の内容。会長と協議を重ねつつ、チーム内でも時間をかけて意見を出し合った。まだ完全ではないと思うのでご意見をいただきたい。

検討委員：ありがとうございます。このような委員会では自由に意見することができますが、市の事務局と一緒に進めていくことや、傍聴者もおられることを考えると、事務局が悩んでいる部分を我々が補足する形で議論できればと思って伺いました。

会 長：完璧なビジョンを作るというより、進めていく中で色々な人に関わってもらいながら、どう形作っていくかが重要になると思います。

このまま意見交換に移りますので皆さん自由に発言していただければと思います。

検討委員：ビジョン全体に対し概ね違和感はありませんが、気になる点はいくつかあります。

「4本のまちを推進する人や場所」「5本のまちを推進する人や場所の連携」の二つは、違いが分かりにくいのでまとめてしまってもよいのでは。それから、この表では意図的に民間・私設の場所、公的な場所、市立図書館、市(本のまち担当)を並列に

扱っているのだと思いますが、図書館や市の役割は他と区別するために分けてもいいのではないかと感じます。また、市内の書店・出版社の役割や連携の内容について、先方と事前にお話されているのでしょうか？

事務局：今回作成するにあたっては、あくまで市として考えていることを記載しており、まだ直接の相談や確認までは行っていません。

検討委員：ありがとうございます。パブリックコメント実施前に、書店や出版社と内容をすり合わせる必要がありますね。先方の認識と違う内容で公開するのは避けたいです。

検討委員：今のお話と関連して、それぞれの役割の内容が、2ページ「明石市本のまちビジョンの位置づけ」に示した計画や関連する設置管理条例、施設の指定管理仕様書等とずれてしまうと市民にとって分かりにくい内容になるので、確認は必要だと思います。

事務局：関連部署、例えば学校図書館や文化施設の所管課には確認しながら進めている。

会長：他にはどうですか。「3本のまち明石が目指すイメージ」は、市が期待する本のまちにおける人の動きを示す図だと受け取りました。この図も前回から大きく変わった部分なので、何かご意見ありましたらお願いいたします。

検討委員：前回と比較して内容が格段に深まっている印象です。冒頭から6ページ「2本のまち推進の方向性と大切にしたいこと」までで、これまでの議論の内容が分かりやすく表現されています。4と5は確かにまとめてしまった方がいいですね。ここで示した人や場所の役割や連携は、市が目指したいことであると同時に、市民に対する提案でもあります。それぞれの場所についての理想像、実現するためのアクション、それに関わる人。これらを整理した上でまとめると、非常に分かりやすくなるのでは。

あとは、どう分かりやすく伝えるかですね。ビジョン6ページまでは小学校高学年～中学生でも自分の言葉として話せるような、分かりやすい内容だと思います。その先、例えば中学生が「学校図書館はこういう場所」と話せるような柔らかい言葉で、それぞれの場所について言語化できるといいと思います。市長が図書館等を紹介する時に使う言葉を、子どもたちも同じように使えると素晴らしいと思います。

検討委員：つまり、本のまちを推進する人や場所それぞれに、短いキャッチコピーがつかうようなイメージでしょうか？

検討委員：はい。それぞれの社会的価値やビジョンを分かりやすく反映したような。例えば図書館を「屋根のついた公園」と呼んだり、ビジョンに出てくる「リビング&ライブラリー」もそういう言葉ですね。子どもたちに分かりやすく、かつキャッチーな言葉で他の場所についても表現できるといいなと思います。

会長：役割が違う様々な場所が交わり合っ一緒に何か作り出していく、いわば「共振」や「共創」と言われる状態が、市が期待することなのだと思います。そのことをキャッチーかつ本質を突いた言葉で表現したいですね。小学生は難しいかもしれませんが、中学生くらいには伝わるようなシンプルな言葉にできるといいですよ。

検討委員：4と5にある期待する役割や連携というのは、市民からのニーズにどう応えるかということでもありますね。そう考えると、これまで明石市が実施してきたタウンミーティング等に出てきた意見も反映させる必要があるかもしれませんね。タウンミーテ

イングの意見まとめにも、「居場所が必要」という意見はたくさん出ていたように感じます。本のまちづくりでも市民のニーズに応じて居場所を作っていくという、市民に対するメッセージになればいいなと思います。

また、ブックスポット助成の審査に参加した際に話題に出ていたことですが、明石市内の公共施設全てにブックスポットがある状態を目指してもよいのではないのでしょうか。であればビジョンに載っている施設以外の公共施設について言及する必要があるかもしれません。そうした場所は現状ブックスポットに含まれていますが、公共施設としてどういう役割を果たすかも重要ではないかと思います。

もう一点、イメージ図に「公共スペース」とありますが、これは現状公共施設のことを指していますよね。つまりその外側の「本のあるスペース」には公共性は無いという意味になってしまう。私設や民間のブックスポット等も、広く開いた場所になることで公共性を持ち始めることが重要だと個人的に思います。公共は行政だけが提供するものではなく、市民がつくる公共もあるはず。ビジョン中で「公共スペース＝公共施設」と定義してしまうと、その可能性を狭めてしまうのではないのでしょうか。

会長：公立の施設を「公共施設」とすることは一般に浸透しているので問題ないとしても、それはあくまで公共の場所の一つでしかない、ということですね。大きな括りとしての公共（パブリック）という意味をはっきり示した方がよいですね。

検討委員：イメージ図の「本のあるスペース」は、言い換えれば個人や民間によるパブリックスペース（開かれた場）ですから、全ての場がパブリックスペースになりますね。

会長：パブリックスペースという言葉はあまり一般に浸透していませんが、その考え方を広めるという意味ではあえてその言葉を使うのもいいですね。

検討委員：公共は行政が与えるものと思っている人はたくさんいますが、公共性は自分たちで作ることもできるわけですし、それがまさに市民自治だと思います。例えば西明石で行われている公園の活用プロジェクトは、市民主体かつ公共性のある取組の一例と言えます。行政がやる＝公共という認識を改めるためにも、公共という言葉の使い方には気を付けた方がいいと思います。

検討委員：つまりそれが「共創」ですよ。広く開かれた場が皆にとって親しみのある場所になっていく意味での公共（パブリック）スペース、その中に公共施設も含まれるということですね。4の表に「公共施設」も追加するといいかもしれません。

検討委員：例えばごみ処理センターは学校の社会見学で学ぶ場として活用されていますよね。そういう場所に本も置いてあって、施設に関することを学べるのはすごく良いと思います。本を置くことが、行政の持つ公共財産を市民に開き活用する手段の一つになる、ということも含めた「本のまちづくり」になるといいのではないのでしょうか。

検討委員：話が逸れてしまうかもしれませんが、9月に開催したワークショップで、本のある場所だけが居場所ではなく、例えば景色の良い場所に本を持って行って読むことも居場所といえる、と仰っていた方がいました。そのことがすごく印象に残っており、その上で「大切にしたいこと」の「④本のある場所でくつろぎ、過ごしたいように過ごせる」を読むと、「本のある」場所と限定していいのだろうか、とってしまいま

す。イメージ図に本のあるスペースとあるのでそれが前提になるのだとは思いますが、「居場所」のニュアンスが少し弱いのではないかと考えてしまいます。

検討委員：居場所は本のある場所に限られないですが、本のまちビジョンでは、人が集まり、つながり、自分らしく過ごすことのきっかけを「本」に求める、というのが軸になるのでしょうか。本は、その本を読むか読まないか関係なしに人を引き付けるというか、磁力があると思います。そういう意味では、本というものの自体をもう少し広義に捉えてもいいんじゃないでしょうか。

会長：一般的には「本のある場所」と「居場所」は必ずしもつながらないですしね。場所によってそのどちらに重点を置くかも違うでしょうけど、今お話があったように本のまちづくりでは「本」をキーワードに取組や場づくりを広げようとしています。もちろん体を動かす遊び場のような、本のまちづくりには入りそうにない居場所も当然ありますが、その上でできるだけ広く囲えればいいなと思います。

検討委員：「1 はじめに」で「なぜ本のまちづくりか」に触れており、ここには本は多様な価値観に触れるためのメディアということが書いてあります。つまり本はモノではなく多様な価値観を形にしたもの、ということなのだと思いますが、そのことがもう少しはっきりすれば、「本のまち」「本のある場所」の意義もイメージしやすくなりそうですね。表現を工夫する必要があるかもしれませんね。

会長：読むという言葉の解釈を広げるということですね。ビジョン冒頭に入れる情報が増えてしまいますが、その内容が入っている方が分かりやすいかもしれません。図書館は本というモノを受け渡す場所のイメージが強いので。

検討委員：ビジョンにはデジタルの話も出てきますが、そういう情報等も含めて「本」ということと、加えてそれがなぜ「やさしさ」につながるかが腹落ちするような表現を検討していただくといいなと思います。多様な生き方・考え方の人がいることが本を読むと分かるんだよ、本だけでなくネットでそういう情報に触れてもいいんだよ、というような。もちろん現状でもそういうことが感じられる表現だと思いますけど。

検討委員：「大切にしたいこと」の内容は良いと思いますが、やっぱり「なぜ本なのか」という疑問は出てきますね。「本」の部分映像、ゲーム、スポーツ等、他のものに変えても成り立つので、「何で市は本にだけ力を入れるのか」と思う人もいるかもしれません。その時に市として、「なぜ本か」を自信を持って答えられるようにしておく必要はあると感じます。本のまちビジョンが一般に公開されたとき、どんな反応になるか分からないですしね。明石市なりの本に対する哲学というか、そういう議論は今回ビジョンを定めて終わりではなく、継続していかなければならないと思います。

会長：これは私の個人的な意見ですが、本というのは過去、つまりずっと前の時代から連続と継いできたもの、言い換えれば歴史が蓄積したものですから、やっぱり本のまちづくりにも過去から今、今から未来という大きな時間の軸があると思います。その中心に本という、蓄積した情報があることが重要なのではないかなと。

検討委員：要するに、時間と空間を超えて人や社会の多様な有様を知れるツールが本ですね。例えば、最近デジタルアーカイブに取り組む図書館が増えていますが、それはその地

域の中で過去から現在にかけて大事にされてきたことに焦点を当てる、ということですよ。バラバラになった地域の歴史や蓄積された情報をもう一度皆で共有するための取組なのだと思います。

検討委員：今のお話と関連して、本のまちのビジョンはゼロから新しく始めるというより、これまでやってきたことを再編集して次の時代に向けて、というものだと思います。以前資料として配布された、これまでの明石の図書館や本に関する施策年表のようなものをビジョンの中に残しておく必要があるんじゃないでしょうか。それ無しにこのビジョンだけ公表してしまうと、今から新たに本のまちづくりを始めると捉えられかねません。このビジョンは、明石がこれまでずっとやってきた本のまちづくりにエンジンをかけ直すため、次のステージに進むためのビジョンであることを示すために、本のまちの歴史を記しておいた方がよいと思います。

検討委員：本のまちづくりが「やさしさあふれるまち」に根差しているのであれば、そこに関連する施策や取組について記すのも大事だと思います。

会 長：「やさしさあふれるまち」の中に「本のまちづくり」で大事にしたい価値観も含まれるということですね。

検討委員：「やさしさあふれるまち」も文字通り受け取るだけでは意味が分かりにくいですね。本のまちビジョンが言う「本」や「読む」ことの定義がそこにつながって、明石ならではの「本のまちづくり」になることが大事かなと。

検討委員：話が変わりますが、「6 市が取り組むこと」について。先ほどこれまでの歴史を残した方がいいと言った一方で、せっかくビジョンを作るなら新しいことにチャレンジしてほしいという思いもあります。これは計画ではないので KPI は必要ないと思いますが、ここに挙がっている取組例の中で、新しいものはあるのでしょうか？

事務局：全く取り組んでいないものというところでは、市民のやりたいこと・チャレンジを支える環境や仕組みづくりの部分。書き手等、創作活動支援の必要性は感じている。他の部分についてもニーズに応じて内容を検討し、実現していきたいと考えている。

市 長：加えて、R7年4月には新たに二見図書館が、R8年には西明石地域交流センター内に図書スペースが完成する予定。これらは「リビング&ライブラリー」をコンセプトに、より地域に開かれた場所にしたいと考えている。皆さんの議論を反映したビジョンを策定し、新たな図書館はそのビジョンに基づいた運営を目指す。

検討委員：ビジョンですので具体的なアクションプランまでは必要ないと思いますが、三つ重要だと思う点があります。一つ目は市民の活動をどう支援するかです。市民活動サポートセンターのように NPO や市民団体といった組織を支援するのではなく、市民一人一人の活動にどう寄り添うか。それを図書館等が担うくらいのことは言い切っているかもしれませんが。レファレンスだけでなく、その人のやりたいことに寄り添えるような図書館司書の役割もあっていいと思うので、情報支援を超えて活動の支援を行います、とはっきり言ってしまってもいいかなと。二つ目は学校図書館について。学習・情報・読書の三つのセンター機能を備えるということは、子どもたちの新しい学びを支えることと同義だと思うので、そのニュアンスも入れたいです。三つ目は、市民参画

や共創ですね。市民の主体形成を促進しつつ参画しやすい仕組みを整備する、その動きの拡充については、もう少し強調していいかもしれません。

会長：そうですね。「市の取組」では、本のまち担当は伴走だけでなく事業の立ち上げやコーディネートも担うとありますが、その中で、今お話されたような方向性が見えるようになるといいかもしれません。

検討委員：もう一つ、情報の蓄積も重要ですね。地域資料の収集についてもう一步踏み込み、情報の蓄積だけでなく地域の歴史を作り上げていく意識を持てるとよいのでは。

検討委員：今のお話に関連して。市立図書館による市民活動の支援について、周知は不十分かもしれませんが、すでに実施されているものもいくつかあります。例えば私が参加している「市民夢の図書館プロジェクト(Dチーム)」では、市民ボランティアが図書館司書と相談しながらさまざまなイベント等の企画・運営に取り組んでおり、活動を通じて色々な人とのつながりも出来ています。また私は地元のまちづくり協議会でも活動しているんですけど、地域のお祭りに移動図書館が出張する等、図書館が地域に出る動きも徐々に広がっています。まち協広報紙のコラムで地域の歴史を扱った際には、図書館を通じて博物館につないでくれたこともありました。いずれも私自身が関わった例ですが、図書館ではすでに様々な取組をされています。それを広げ、新しい図書館でもそういった取組を実施していく、市はそれを後押しする、ということがビジョンに表せればいいと思います。

検討委員：情報提供では、すでに行われている取組や事例を発信していくことも重要ですし、ビジョンでも既存の取組が浮き立つようにできればいいですね。

会長：市民図書館がやっている「たこ文庫」のように、本を取り巻く人にフォーカスする取組を本のまち全体で実施するのも面白そうです。「6市の取組」にもそういう出口というか、実際にこれを始めます、ということを書くと言説力が増しそうですね。

検討委員：今ちょうど持っていたんですけど、図書館の広報紙には、先日明石公園で実施された「まちなみガーデンショー」に移動図書館が出張した時の記事が載っていました。

検討委員：「市の取組」のどこかに「共創」の言葉があってもいいかもしれませんね。

会長：「イメージ図」の大きな方向性として「本とつながる」「本からつながる」がありますが、その間をつなぐ言葉がほしい気もします。いつも明石市のどこかで共創や共振のようなことが起きている状態を期待する、ということ表現した言葉で。その上でビジョンの最後にある「市の取組」にもそのニュアンスが入るといい。

検討委員：この「イメージ図」自体が市民と市民、市民と行政が共創する状態を表したものですからね。図のタイトルとしてそういう言葉があってもいいんじゃないでしょうか。

会長：そういえば明石市が実施する保育絵本土が図に入っていないですね。先日講座を見学しましたが、読み聞かせのテクニックだけでなく、子どもの状態をどう掴み、そこにどう絵本を活用するかという能力がかなり鍛えられる内容でした。あの取組は市として誇るべきものだと思うので、保育絵本土たちの活用についてもぜひ図に入れたいと思います。それから4にある役割、書店や出版社の部分にひとり書店・ひとり出版社とありますが、こういった取組は明石でも期待できるものなのでしょうか？

- 検討委員：「出版」というと、ごく限られた人の特別な行為というイメージですね。言い換えれば市民が何かを作る・形にするということですから、そういう市民の力を支えるという意味では入っていていいかもしれません。ただ「ひとり出版社」は分かりにくいので、もう少し市民目線の表現の方がいいと思います。市民にとってどういう書店か、どういう出版社か。各場所のキャッチフレーズもそういう言葉がいいですね。
- 市長：最近気になっていることがあります皆さんのお知恵をお借りしたい。一つはネット等で様々な情報が氾濫する現代における図書館の役割について。茅野市の図書館館長が「図書館の本は職員や司書の目を通して選ばれている。図書館に置くべき本かどうか、覚悟を持って判断している。子どもたちに正しい知識、本物の知識を届けたい」と話していた。個人的にも市及び図書館の役割として重要と思うがどうか。もう一つは、「大切にしたいこと」の中に「本を通じて生きる力や想像（創造）力を育む」といった内容を追加したいが、この部分に追加すべきことかどうか。
- 検討委員：図書館にある本もデジタルとそこまで差は無いと思います。本は正しくてネットはいい加減、とよく耳にしますが、大部分の本はネット情報とあまり変わりません。そういう意味で市や司書、図書館がやるべきことは、知る力（生きる力）を高めていくことだと思います。正しいものを選ぶだけでなく、一緒に考え、選び、整えていく姿勢が大事なのかなど。特定の価値観から見た正しさより、シチズンシップや情報リテラシーを持った人を増やす取組こそ、市や図書館の重要な役割ではないでしょうか。
- 会長：生きる力や想像（創造）力を育むことは「大切にしたいこと」に入るぐらい大事な言葉だと思います。ただ今言われたように、知識は誰かが渡していくものではなく、一緒に作り出していく中にこそ一番大事なものがある、という気がしますね。加えて、知る力も高めておかないと視野が狭くなってしまいます。昔のように「これさえ読んでおけば大丈夫」ではなく、皆で考えながら何を選ぶか決める。そのための力を養うことを学校や、まち全体で意識していくべきかなと思います。
- 検討委員：先日ある地域で地域福祉計画策定委員会に参加しました。その会議で、福祉の世界は分野ごとで見方が違ってまとまらない、だから正解より皆が納得できる「成解」こそ大事という議論になりました。また研究に携わった経験から、一次情報にどうアクセスするかが大事と感じます。その点で図書館のレファレンスサービスは非常に有用で、その使い方を市民が知ること、使いこなせる市民を育むことが重要です。
- 話が逸れるかもしれませんが、今月の「ガバナンス」という雑誌で伊万里図書館が紹介されていました。伊万里では図書館の設計段階から市民会議が立ち上がり、市民が大きく関わった経緯から「市立図書館」でなく「市民図書館」とあえて呼称しているそうです。その意味で明石が自然と「市民図書館」という言葉を使っているのは素晴らしいですが、であれば二見や西明石も「二見図書館」のような呼び方でなく愛称等で示した方が、より市民にとって身近な場所になるのではないかと思います。
- 検討委員：「大切にしたいこと」に「知りたい情報が」とありますが、これも情報だけでなく情報の知り方ですよね。図書館のレファレンスは答えを提示するのではなく、司書とクライアントと一緒に考える行為だと思いますので。

検討委員：デジタルマーケティング関連でwebコンテンツ作成に携わった経験を踏まえると、特にスマホを持つ子どもにとっては危ういと思うこともあります。ネット検索だと関連情報がどんどん出てきて、表示されるニュースも興味のあるものばかりになって、触れる情報が狭まっていますよね。その点図書館では、自分の興味のあるものと、全く反対のものが隣に並んだりしている。そこが図書館の良さだと思います。ネットにも良い情報がたくさんありますが、精度の高い情報にアクセスする方法は学ばないと身につかなくて、検索結果上位の情報＝良い情報というわけではないのが難しいところです。そういう意味で、図書館で調べ物をするのは安心感もありますし、良い意味でノイズ（余計な情報）が入ることも大事だと思います。知りたいこと以外のことにも出会えることが、図書館の意義じゃないかと思っています。

検討委員：情報は、単に受け取るのではなく、自分で何か作る・考えるという行為があって初めて活きるものだと思います。本棚を眺めているだけではネット検索と変わりなくて、目的までの過程で出会う情報が大事なのでは。検索は誰もが当たり前にする行為ですが、本来は自分の発想を広げるために情報を探るのであって、本もネットも答えを見つけるためでなく発想を支援するための道具と考えるべきでしょうね。ビジョンに入れたい「知り方を身につける」ことも、「やりたいことにチャレンジできる」とか「共創」とつなげて考えると、うまく循環するような気がします。

会長：そうですね。市長が仰った生きる力、想像（創造）力といったことを図書館や我々も意識すべきで、一人一人と実際に会って話して創り上げていくのが大事ですね。

検討委員：周囲の友人を見ている、例えば何かやりたいことを探す際、インターネット検索では自分の発想の域を出なくて、結局人と話している時にこそぴったりのアイデアに辿り着いたりしますね。新しい図書館のコンセプトは居場所なので、本だけでなく自分以外の誰かと出会うことができ、その人が自分とは全然違う意見も持っていたりするわけですから、今のお話にぴったりだなと思います。

検討委員：同好会みたいに同じ考えの人ばかり集まる場もいいですが、多様なもの、言い換えれば自分と異なるものと出会えるのが大事ですね。そこでやりたいことが生まれて、異なるもの同士だからこそ豊かになる、ということが起こるといい。

市長：補足として、西明石・二見とも愛称募集しており、西明石地域交流センターは小学生発案の「icotto」に決まり、ロゴもある。二見については地元から現在募集中。

検討委員：「イメージ図」が一番多く人目に触れることになると思うので、この図だけでも市内にいるデザイナー等に依頼して制作してもらうのはどうでしょうか？その方が長く使えると思います。中身はもう少し情報整理した方が分かりやすくなりますね。

検討委員：この図の中に全部盛り込まれていますが、ビジョンの最初に初期のシンプルな図を置いてもいいかもしれない。施設の相関図みたいな図が最初の方であって、「3本のまち明石が目指すイメージ」は詳細版。「共創」を表すタイトル的な言葉はシンプル版に載せるとよさそうです。今の図は読むことが多くてしんどいかもかもしれません。

会長：目指す状態がイメージしやすいって意味では読み込み甲斐がありますけどね。

検討委員：さっき話に出ていた各場所のキャッチフレーズのようなものも、シンプル版に書かれるといいですね。場所の分布図みたいなイメージで。

検討委員：デザインはシビックプライドと密接につながると思うので、ぜひ力を入れてほしいです。私が明石に転入した時、西部図書館や移転リニューアル後の市民図書館を見て、何て文化的なまちだと感動しました。特に市民図書館は明るい雰囲気、ロゴやイラストも統一感があり、期待感が高まった記憶があります。本のまちビジョンは明石の文化をつないでいくビジョンになると思うので、視覚的にも盛り上がる洗練されたデザインになるといいなと。時間や予算の制約もあると思いますが、フリーイラストでなくオリジナルのものを作りたいです。市内にデザイン受託できるクリエイターはいると思いますし、これを機にそうした人とつながれるのもメリットです。

会長：イラストがあるとよりイメージしやすくなりますね。

事務局：本編とは別に概要版も作成予定。その過程でデザインについても検討する。

会長：概要版の内容については皆さんどうでしょうか。私としてはイラストももちろんですが、実際の人を登場させるとより具体的かつリアルに見えるかと思います。他市の総合計画なんかでも用いられる手法ですね。

検討委員：私も人が見える方がいいと思います。加えて、本のまちのロゴがあってもいいかなと。市民図書館やブックスポットのようにロゴがあると、それが使われているものは本のまちに関連するということが分かりやすいかもしれないな、と思います。

会長：「1 はじめに」にあるように、このビジョンは変化していくことを前提に作るものですが、本のまちづくりを陳腐化させない方法やアイデアはありますか？

検討委員：普通は計画期間を設定して都度見直していくものだと思いますが、本のまちビジョンはいつの明石に向けたビジョンなのか、を示してもいいかもしれません。とはいえ年限を設けることでかえって陳腐化してしまう気もしますが、本文に書くかどうかはともかく、定期的に見直す機会を作りたいですね。せっかくこうして有識者の皆さんが明石の本のまちに関わってくださっているので、このつながりが継続できるよう、例えば年に一回本のまち会議を開くとか。個人的には市民会議でいいと思っていて、有識者だけでなく今日傍聴に来られている皆さんとも本のまちについて話し合う場を作れるといいなと思います。いずれにせよ、作って終わりにせず、変化を支えるために市民によるビジョンの更新は続けていきたいですね。

検討委員：このビジョンに基づいた課題やアクションを共有する場があるといいですね。ビジョンの更新というより、それぞれの活動について話し合っ更新する場になりそう。

会長：緩い場が定期的にあるといいですね。新しい図書館を運営する過程でビジョンそのものも微修正されていくでしょうけど、本のまちに関わる皆がやりたいことが、その場で共有・更新されていくといい。やり始めてから分かることもありますし。

検討委員：このビジョンがあることによって新しい活動を始める人が出てきたりすれば、それこそ成果ではないかと思います。建築家の小島一浩が出した「小さな矢印の群れ」という本では、行政が大きな矢印を示して皆がそれに乗る時代は終わり、色々な人が小さな矢印を色々な方向に向けている状態をどう作るかが重要、とされています。本

のまちのビジョンは正にそういう内容ですね。「大切にしたいこと」も一見漠然としていますが、だからこそたくさんの矢印がこのまちに生まれて、市民の活動が多層的だからこそ本のまちは成り立つ、と言えるといいなと思います。

検討委員：最近リビングラボを実施する自治体もありますけど、誰かのチャレンジを皆で検証するような場があってもいいかもしれませんよね。

検討委員：以前聞いた前橋ブックフェスタの事例が印象的でした。緩さに加えて、持ち寄りのできるようなことが本のまちでもできるといいなと思います。

検討委員：若い世代にも、今日のような話に関心がある人が少なからずいますが、ハードルが高いと感じてなかなか参加できずにいると思います。だからといって意見が無いわけではなく、参加意欲がある人もいる。緩くとつきやすい雰囲気があれば参加しやすく、自分たちも一緒にやれているという感覚を持てると思います。

会長：緩い場を継続したいという意見が多数ありますので、ぜひ実施したいですね。コーヒーや明石焼きを絡めた、本のあるイベントやフェスでもいいかもしれません。

検討委員：概要版について、見た人が「これは自分に対して言われてることだ」と思えるものが多いと思います。分かりやすくという点では、例えばターゲットを中学生に設定して、完成前に実際に中学生に意見をもらってもいいかもしれません。

会長：面白いのでぜひ中学生に見てもらいたいですね。

検討委員：こども基本法にも、子どもに関わることは子どもの意見を聞くとあるので、そういうプロセスがあってもいいと思います。

会長：他にご意見ありますでしょうか。無ければそろそろ定刻ですので、事務局にお返ししたいと思います。

6 その他

山口部長：吉成会長、これまでの進行ありがとうございました。委員の皆様、様々なご意見や事例の紹介と、活発な意見交換をありがとうございました。

事務局からの連絡事項

今後のスケジュールについては会長と協議の上で決定し、都度各委員に連絡する

閉会